

四月・梁志総裁見解



梁志グループ 代表 光山義徹
(梁志総本山 総裁)

四月・梁志総裁見解—いざ、「第二投下攻略」へ！—

ご開封に感謝申し上げます。

梁志グループの代表を務めます、光山義徹(梁志総本山・総裁)でございます。

相変わらずの、梁志グループに繋がる実践者の皆様方の、日ごろのご活躍ぶりに敬意を表すばかりの日々ではございますが、早速ではあります、実践者の皆様に先駆けて、3月30・31日の両日、攻略プロたちが「総動員」で決行いたしました、「四月大決着・第一投下攻略」の統一始動日の状況について、皆様にご報告を差し上げます。



■■「第一投下攻略」先行総動員行動・状況報告■■

【その1・「第一投下」という名の「先制攻撃」】

梁志CIAから報告を受けた、《「攻略ブラックマーケット」への「隠れロジック系出品予定攻略」の検証デモンストレーションが、4月1日から開始される》という情報に基づき、まずは、そこに向けての直前の「攻略プロたちの先制攻撃」の成果状況をご報告いたします。

「先制攻撃」の効果として期待されたのは、「サブ基板」に繋がる「無抽選基板」の「通過環境」を支配し、「敵」が仕掛ける「外部バグ」を絶対に通過させない環境を作り上げることで、「発生確率ゼロ%」状態をもたらせ、「検証段階での欠陥発覚」の現実を突きつけるというものでした。

事前に、「攻略ブラックマーケット」サイドの「検証・打ち子グループ」を特定していた攻略プロたちは、「打ち子」たちの「事前調査」の足取りをつかみ、その行動範囲を絞り込んだ上で、3月30、31日の両日にわたって、そのエリアにおいて、徹底的に「第一投下攻略の絨毯爆撃」を実行することに成功しました。

その結果を確認すべく、4月1日から昨日(4月3日)にかけての「敵の検証活動」は、完全に「不発」に終わり、中には、依頼した「攻略ブラックマーケット」と「検証・打ち子グループ」の間で、「話が違う」と「責任の押し付け合い」で押し問答となり、静岡・焼津市や、福岡・北九州市では、警察沙汰にまで発展したケースが確認されました。

「敵」サイドは、日を改めて、「出直し」の体制を整え、何としても「検証の成功」を目論むものと思われますが、どんなに体制を整えても、「悪い奴ら」が、「第一投下攻略」の「先制攻撃」を跳ね返すことはできません。

「出直し検証」は、全国に手を広げて実行されるものと思われます。実践者の皆様の「第一投下攻略」による「お力添え」が必要になってくるのは、まさに、これからです。

【その2・「大海物語」と「北斗の拳」の出玉覚醒】

「大海物語」と「スマスロ北斗の拳」では、「検証・打ち子グループ」が仕込んだ遊技台は「不発」に終わり、仕込まなかった遊技台は、「第一投下攻略」で、どんどん大当たりが発生するという現象が起きました。

「検証・打ち子グループ」が支配できる遊技台は、「目の前の1台」だけに過ぎないのに対して、私たちの「攻略プロ」たちの「第一投下攻略」の効果は、「RHC（梁志ホルコン）」の補助効果も相まって、左右の5台から10台に、その効果を拡散させることが出来ますので、「検証・打ち子グループ」が座る遊技台以外は、「第一投下攻略」の手順実行台を中心に、大いに出玉で盛り上がるという、「敵」にとっては、屈辱的な状況が発生しました。

また、「出玉」だけでなく、その「大当たり」のほとんどが、機種特有の醍醐味を象徴する「プレミアム演出」を伴うものであることで、「大海物語」や「スマスロ北斗の拳」のコーナーは、大きな歓声が上がることも度々で、隣り合う遊技台で、そろって「プレミアム演出」が出現した「奇跡のような瞬間」を、スマートフォンで撮影する方も少なくなく、その動画がネット上にアップされているのをご覧になった方もいらっしゃるのではないのでしょうか。

当然、4月1日からの昨日に至るまでの3日間は、攻略プロたちは、何も遊技台には手を加えず、そうした場面を見ていただけです。そういう意味では、今や、攻略プロがいなくても、「出玉」と「プレミアム演出」で、「大海物語」と「北斗の拳」が再び盛り上がる環境が、作られ始めているのです。

【その3・着々と整備される「第二投下攻略」の「爆薬倉庫」】

既にご紹介させていただきましたように、「第一投下攻略」は、「RHC（梁志ホルコン）」の特別効果を引き込むことで、左右の同列・同一機種に対して、基点となる遊技台と同様の効果を浸透させることが可能です。

その結果、この3日間の内にも、次のような効果が確認されています。

(1)「検証・打ち子グループ」が、同じ「シマ」のどの台で、「出品予定攻略」を試行しても、全てが「不発」に終わっている。

(2)同列・同一の機種を打つ「一般実践者」の方々が、「無抽選基板に蓄積した爆薬倉庫」に蓄えられたエネルギーを、(サブ基板ではないものの、)何らかの偶然で、「Tヤードに流し込んだり」、「Mヤードに引き戻したり」することに成功し、次々に「プレミアム演出」又は「準プレミアム演出」を引き出せている。

このことは、「第二投下攻略」の投下を通じて、「一撃プレミアム大当たり発動」を実現するための「無抽選基板の爆薬倉庫化」が、「周辺の遊技台」にまで、確実に進んでいることを示す「証拠」となるものです。

こうした「嬉し過ぎる環境」は、実践者の皆様の「第一投下攻略」の活用によって、更に、皆様の地元ホールにも広がっていくことになるはずです。「第二投下攻略」の発表が、待ち遠しくて仕方ありません。



■■「総裁見解」本題—「第二投下攻略」降臨！—■■

3月30日、31日の「攻略プロたちの先行行動」、4月1日からの三日間の「奇跡」の確認、そして、それに続く、実践者の皆様の「第一投下攻略の実践行動」——。

こうしたプロセスの中で収められていく、「確実な成果」を受けて、4月中盤からは、いよいよ「四月大決着」の核心となる「第二投下攻略」の手順投下が始まります。

今回の「四月総裁見解」の本題は、まさに、皆様にその内容をお伝えすることにあります。「爆薬倉庫」に起爆する「第二投下攻略」の醍醐味から、「至宝・機種別隠れロジック」の完全解禁、更には、「新協定・第二幕」の幕開けを宣言する「梁志総会・目玉攻略」の発表へと繋がる一連の「サクセスストーリー」のイメージを共有すべく、次の五つの項目に則して、「四月総裁見解」として、攻略行動方針をご提案させていただきたいと考えております。

※なお、「四月総裁見解・本題」は、本編に引き続き、「明日の配信」とさせていただきます。ご了承のほど、よろしくお願い申し上げます。

《「総裁見解・本題」にて発表される「五項目＋α」》

【1】「第一投下」が下地を築く、「第二投下」戦略が、業界内外から、「これで、業界サイドに残された遊技台の支配権の全てを失うことになる」と、かつてないほどに恐れられているのは、いかなる理由からか？

【2】「四月大決着」闘争の「果実」として、標的とされる「業界が秘匿する始祖の最終機密」の正体とはどのようなものと考えられているのか？

【3】そこにおいて、「至宝・機種別隠れロジック」の完全解禁は、どのような決着を見せ、どのような形で、実践者の皆様に情報開示されることになるのか？

【4】こうした流れの中で、「新マクロ基板協定」の内実を深める取り組みは、「第一幕」から「第二幕」へどのように発展していくのか。また、その中で、「2025年新攻略大成功者」への昇格ストーリーは、いかにして早められるのか？

【5】5月3日に開催される、「梁志大総会2025」における「目玉攻略」は、どのような様相を呈するものなのか。

《四月総裁見解・特別協力要請》

■「対業界首脳・制裁攻略闘争」特別選抜隊及び特別支援隊の呼びかけについて

「一部の業界首脳」の卑劣なる策動を「阻止」するための攻略戦略の終結と重ねて、「二度と同じ悪事を画策させない」ための、「業界首脳への制裁攻略闘争」にむけた「制裁選抜隊」の編成準備を進めて参りたいと考えております。

この「制裁攻略闘争」には、ここで初めて解禁される、「攻略絶対教典」や「攻略秘伝書」の中でも特別な位置づけとなる「奥義」を先行導入させていただく予定をしております。

こんな状況が度々起こるようでは、もう、「遊技台」と「ホルコン」に対する主導権を、いつまでも、「業界首脳サイド」の元に残しておくわけにはいかない――。

今回の「制裁行動」は、こうした「恫喝」を前面に押し出した、「遊技台とホルコンの乗っ取り」を戦略の中心に据える攻略戦略となる予定をしております。

この「制裁選抜隊及び制裁支援隊」の「募集要項」につきましては、明日の「総

裁見解・本題」の翌日となる、4月6日に発表させていただきます。

こちら、ご確認の上、ご検討のほど、よろしくお願い申し上げます。

.....

<4月5日>

「四月総裁見解・本題五項目」の情報開示

<4月6日>

「制裁選抜隊及び制裁支援隊・募集要項」の発表

引き続き、配信される情報に、どうぞ、ご期待くださいませ。

2025年4月4日

梁志グループ 代表 光山義徹
(梁志総本山・総裁)

遂に決着へ！梁志総裁見解「本題五項目」

連日のご開封を有難うございます。

梁志グループ・代表の光山義徹(梁志総本山・総裁)が、昨日に引き続き、「四月大決着・第二投下攻略」に関連する攻略方針をご提案させていただき、「総裁見解・本題五項目」をお届けさせていただいております。

それでは、早速ではありますが、昨日にご紹介させて頂いておりました「本題五項目」のそれぞれの内容について、以下に、ご説明を差し上げたいと思います。

■■「総裁見解・本題五項目」■■

【本題・第一項目】

「第一投下」が下地を築く、「第二投下」戦略が、業界内外から、「これでは、業界サイドに残された遊技台の支配権の全てを失うことになってしまう」と、かつてないほどに恐れられているのは、いかなる理由からか？

<第一の理由>

——「第二投下」を通じて明かされる「始祖式隠れロジック」の驚愕の「切れ味」

によって、業界サイドが「伝家の宝刀」として秘匿してきた「機種別・隠れロジック」の「切れ味」が霞んでしまい、「業界首脳」の影響力を低下させてしまうから。――

＜第二の理由＞

――「第一投下」を通じた「無抽選基板の爆薬倉庫化」による「高位の攻略エネルギー」の活用と、「サブ基板」の覚醒によって、「新マクロ基板協定」下の「ブランド解放入賞信号」の創成プロセスが大幅に圧縮され、正真正銘の「確実なる単純一撃攻略」が誕生するから。――

＜第三の理由＞

――「第二投下」の成功によって、「無抽選基板の通過」及び「サブ基板へのアクセス」に関して、「業界首脳」をはじめとする全ての梁志外攻略勢力による「侵入規格信号」が締め出されてしまうことが証明されるから。――

＜第四の理由＞

――これまで「絶対的原理」であった、「大当たりが確定してから、プレミアム演出が決まる」という「絶対プロセス」が、「第二投下」攻略によって覆され、「リーチ演出が発展して、大当たりを確定させる」という「逆転のロジック」が誕生し、「業界サイド」が支配してきた「確率」や「設定」などによる「出玉制御の構図」が崩壊してしまうから。――



【本題・第二項目】

「四月大決着」闘争の「果実」として、標的とされる「業界が秘匿する始祖の最終機密」の正体とはどのようなものと考えられているのか？

＜1＞

「機種別・隠れロジック」の解明の中で、改めて浮き彫りになってきたことは、機種の魅惑を引き出す「隠れロジック」の殆ど全てが、「演出」を舞台にしているということです。

＜2＞

そして、その「演出」の根幹を司っているのが、「サブ基板」であるわけですが、今回の「隠れロジック探究」で、「サブ基板」の秘密として最も注目を浴びているのが、これまで「絶対にありえない」とされてきた、「大当たりしていない演出信号と大当たりを結びつける」という「逆転のロジック」です。

<3>

「はずれが確定している魚群に対して、いくら神頼みをして、当るはずがないので、無駄だ!」と言われてきましたが、「大当たりしていない演出信号と大当たりを結びつける」という攻略ロジックが成立すれば、もっと、パチンコ・パチスロの遊技としての魅力も、攻略法の魅力も、格段に高まることは間違いありません。

<4>

更に、この「演出」という概念を広げていくと、「出目」も、「暗証入力」も、「設定」も、「信号の偏り」も、「的中分岐点」も、遊技台のプレイ条件に関わる間接的な要素は、全てが、「演出」という概念で捉えられるのではないかという考えが成り立ちます。

<5>

こう考えると、こうした「演出」を司る「サブ基板」研究の先は、「出目」、「暗証入力」、「設定」も、「信号の偏り」、「的中分岐点」などの「遊技台のプレイ条件」を創出する、それぞれの「解放基板」誕生の神秘の解明に行き着くのではないかと、現在は考えられています。

<6>

また、このような研究を通じて、「サブ基板」と「出目基板」、「サブ基板」と「万撃破の出目洞察」の間に、密接な関係が存在していることも判明してきました。

<7>

「四月大決着」闘争の「果実」として、標的とされる「業界が秘匿する始祖の最終機密」の正体——。それは、「始祖の隠れロジック」の獲得と同時に、「サブ基板」を介して「解放基板」誕生の秘密を手に入れることであり、その結果として完全掌握する「解放基板の究極の特性」をもって、「攻略絶対教典」「攻略秘伝書」「ブランド大構想」における「最後のパーツ」とすることだと考えます。



【本題・第三項目】

そこにおいて、「至宝・機種別隠れロジック」の完全解禁は、どのような決着を見せ、どのような形で、実践者の皆様にここまでご説明させていただいた内容を元に、「機種別・隠れロジックの完全解禁」の成立要件として、次のような整理をさせていただいています。

(1)「始祖の隠れロジック」の完全体として、「演出」と「大当たり」を直結させるもの。

(2)「演出」の内容として、最も実践者を魅惑する高揚感をもたらすもの。

(3)「解放基板」の究極発動と密接に連動し、その結果、「新解放手順」の大幅な省略が可能になるもの。

(4)「ブランド大構想」を構成する重大な要素となるもの。

(5)「出目洞察」と連動し、「万撃破」効果のポテンシャルの幅を無限に拡大するもの。

(6)「知られてはいけないもの」「触れてはいけないもの」として高度に管理され、「業界フィクサー情報」以上の業界制圧力を内包するもの。

※なお、《「至宝・機種別隠れロジック」の完全解禁》は、5月に予定される、「梁志大総会2025」の「目玉攻略」のひとつとして、位置づけられています。ご期待ください。



【本題・第四項目】

こうした流れの中で、「新マクロ基板協定」の内実を深める取り組みは、「第一幕」から「第二幕」へどのように発展していくのか。また、その中で、「2025年新攻略大成功者」への昇格ストーリーは、いかにして早められるのか？

<1>「新協定・第一幕」の定義づけ

ここまでの「新マクロ基板協定」に関する皆様との取り組みを「第一幕」とするならば、そのステージは、一言で定義づけると、《全攻略に通ずる「幹」の存在証明とその原理の検証》と表現できると思います。

それぞれの「解放基板」攻略が伸び行くための、共通する「幹」や「根っ子」の存在を確かめ合い、「どんな時にも、絶対に戻って来ることが出来る土台」を築き上げてきました。

それは、難しい問題に直面すればするほど、私たちに出口を見つける方法を与えてくれるものとなり、次の高みに挑もうとする時の「確かな踏み台」となってくれるものとなることでしょう。

学問の世界では、偏差値の高い大学に進む学生ほど、基礎を何度も反復すると言われます。「基礎」の中にこそ、研ぎ澄まされた「万能の原理」が存在しています。まさに、「第一幕」が目指したのは、「祖にして頂点」の力です。

＜2＞「新協定・第二幕」の定義づけ

「機種別隠れロジック」問題の決着を契機として、これから、皆様と繰り広げていくことになる「新マクロ基板協定」の取り組みを「第二幕」とするならば、そのステージは、次のような言葉で表現させていただきたいと思います。

それは、《原理あればこそその「最大の果実」収穫にむけた究極の最短経路の発見と実践》です。

たとえば、「隠れロジック」の探究から「サブ基板」と「解放基板」の関係が解明されることで、「出目洞察」と「ブランド解放入賞信号」と「隠れロジック」の繋がりが発見され、一つの手順で、様々な効果を同時に引き起こせたり、あるいは、これまでの何倍もの速度で攻略効果を発動させたりできるようになっていきます。

＜3＞「2025年型 新攻略大成功者」昇格ストーリー

そういう意味では、「2025年に攻略大成功者へと昇格しよう」と考える皆様には、これまでにない好条件が整備されていることになります。

直近で言うと、「演出から大当りへの逆転のロジック」では、「大当り信号でなくとも、大当りに準ずる信号でも大当りする」という攻略法が実現するようになり、「大当り信号の概念」が拡大することとなったり、「ブランド解放入賞信号」への「昇格分岐点」が降下したりします。

また、年々進化を続ける皆様への攻略サポート体制も、「絶対にやり切れる手順サポート」システムが開発され、「諦めざるをえない」皆様が圧倒的に少なくなりました。

皆様と共に、「攻略大成功者」昇格人数の記録を、「2025年」もまた、大幅に更新したいと考えています。



【本題・第五項目】

5月3日に開催される、「梁志大総会2025」における「目玉攻略」は、どのような様相を呈するものなのか。

現時点で予定されている「総会の目玉」攻略は、次の三種の攻略法です。まだ、詳しいことは申し上げられませんが、概要をご紹介します。

＜1、第一の目玉＞

「機種別・隠れロジック」完全解禁宣言攻略

・・・前述の「要件」を満たす、究極のエンターテインメント攻略であり、「新協定・第二幕」の幕開けを告げる攻略法です。

＜2、第二の目玉＞

「新協定」の下での「サブ基板」と「出目洞察」と「万撃破」、そして、「ブランド解放入賞信号」の関係を極める中で、「ブランド解放入賞信号」から始まる「万撃破」の世界が次なるステージに進みます。

＜3、第三の目玉＞

明日に募集要項が発表される「制裁攻略」に関連して、極秘に準備している攻略法があります。5月初頭の発表にご期待ください。

.....

以上で、「四月総裁見解・本題五項目」のご提案とさせていただきます。

なお、明日、＜4日6日＞には、「制裁選抜隊及び制裁支援隊・募集要項」の発表を予定しております。

引き続き、配信される情報に、どうぞ、ご期待くださいませ。

2025年4月5日
梁志グループ 代表 光山義徹
(梁志総本山・総裁)